

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例あり、型は、O157 VT2です。本年の累積報告数は56例で、平成12年から平成19年の同時期(13例～26例)と比べ、多くなっています。
- デング熱の報告が1例あります。本年の累積報告数は2例で、推定感染地域は国外(インドネシア、台湾、タイ)です。全国の累積報告数(第1週～第30週)は36例です。
- 手足口病の定点当たり報告数は3.00で、5年平均値(1.29)を上回っています。年齢階級別では、2歳 23例(18.7%)が最も多く、次いで1歳及び4歳の各22例(17.9%)となっています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.61で、5年平均値(0.38)を上回り、本年で最も多くなっています。年齢階級別では、5歳 8例(32.0%)が最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:<レジオネラ症>

- 1例の報告があり、本年の累積報告数は15例となりました。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 二類: 結核 2例(喀痰塗抹陽性 なし、無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 211例(喀痰塗抹陽性 66例、無症状病原体保有者 19例)】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2) 2例【1月以降の累積報告数 56例】
- 四類: デング熱(デング熱) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- 五類: 梅毒(晩期顕症梅毒) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類: 麻しん 5例【1月以降の累積報告数 104例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	3.00	123
	② 感染性胃腸炎	2.49	102
	③ ヘルパンギーナ	1.73	71
	④ 咽頭結膜熱	0.61	25
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルス A4型(2)	ヘルパンギーナ(第25週)	NP	アデノウイルス5型 (1)	かぜ症候群(第26週)	NP
	ヘルパンギーナ(第27週)	NP			
コクサッキーウイルス B4型(1)	かぜ症候群(第26週)	NP	ポリオウイルス3型(1)	感染性胃腸炎(第23週)	FC
コクサッキーウイルス B5型(3)	感染性胃腸炎(第25週)	FC			
	かぜ症候群(第26週)	NP			
	無菌性髄膜炎(第26週)	FC, NP			

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<レジオネラ症>

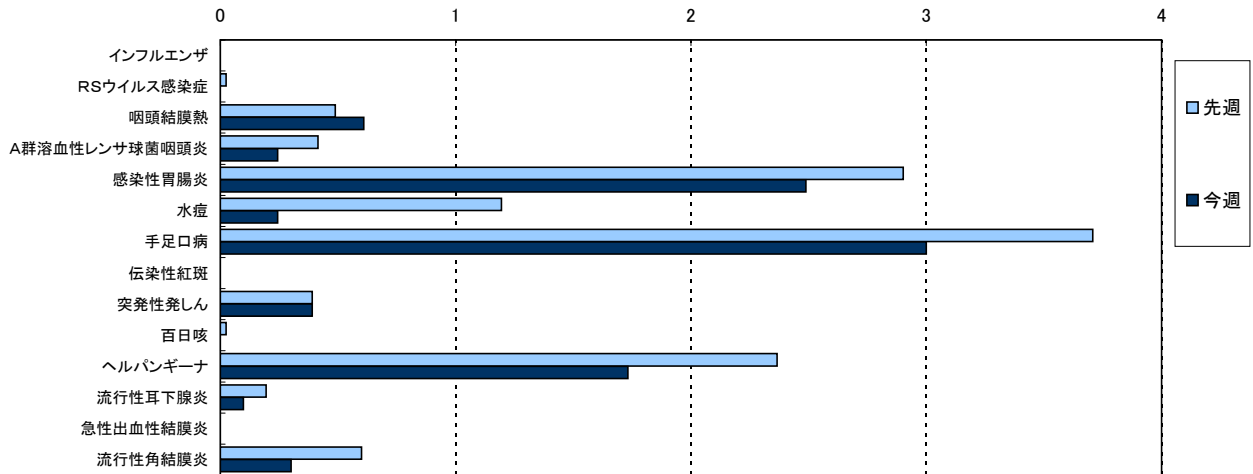
(注)京都市のデータは、平成20年8月1日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

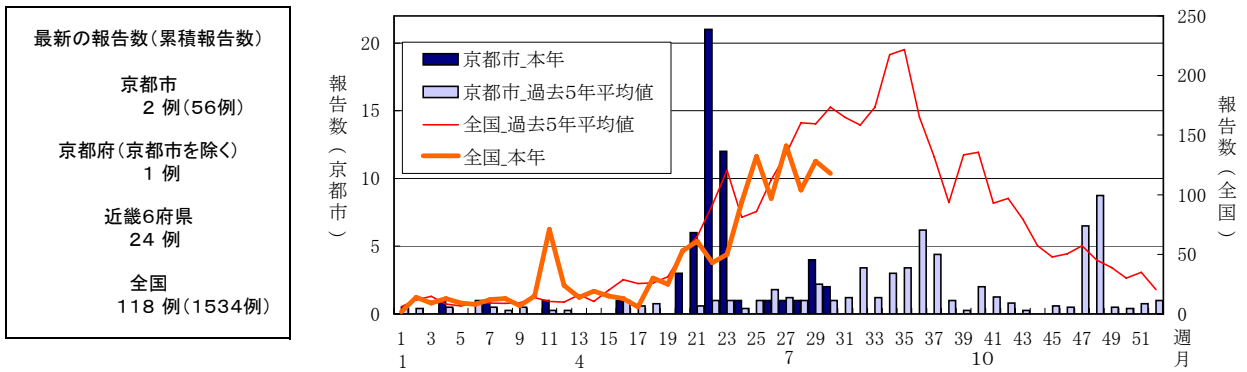
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第30週)と先週(第29週)の定点当たり報告数の比較

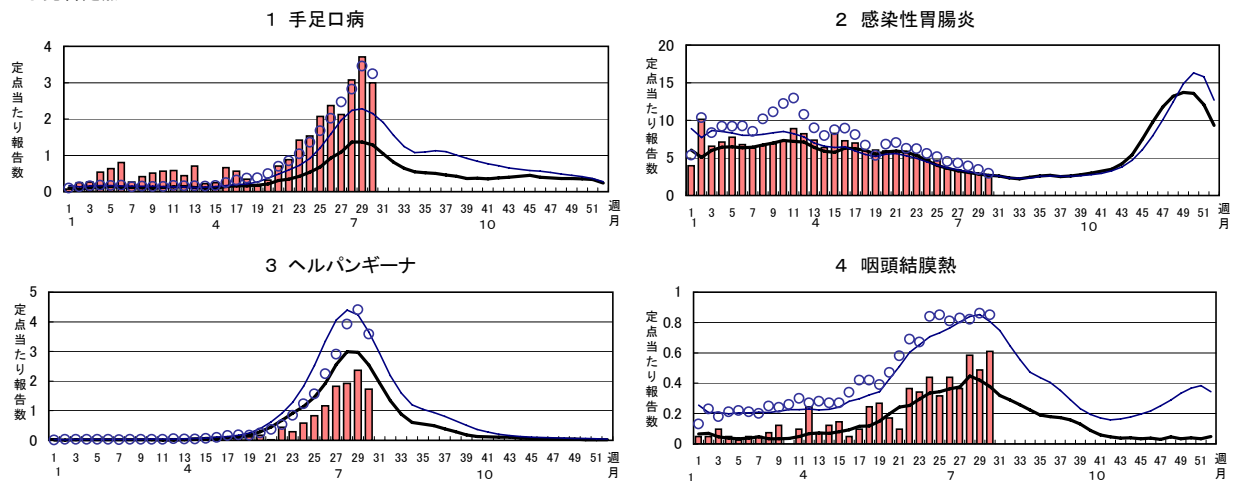


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

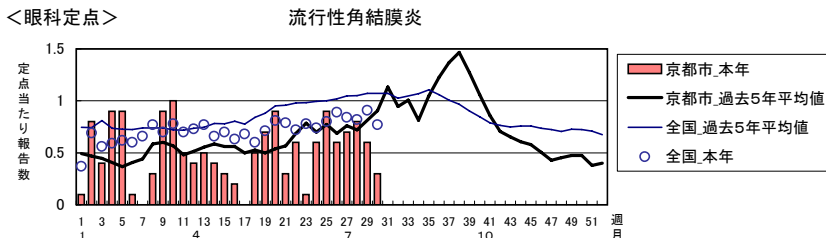


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第30週)のトピックス: <レジオネラ症>

1例の報告があり、本年の累積報告数は15例となりました。

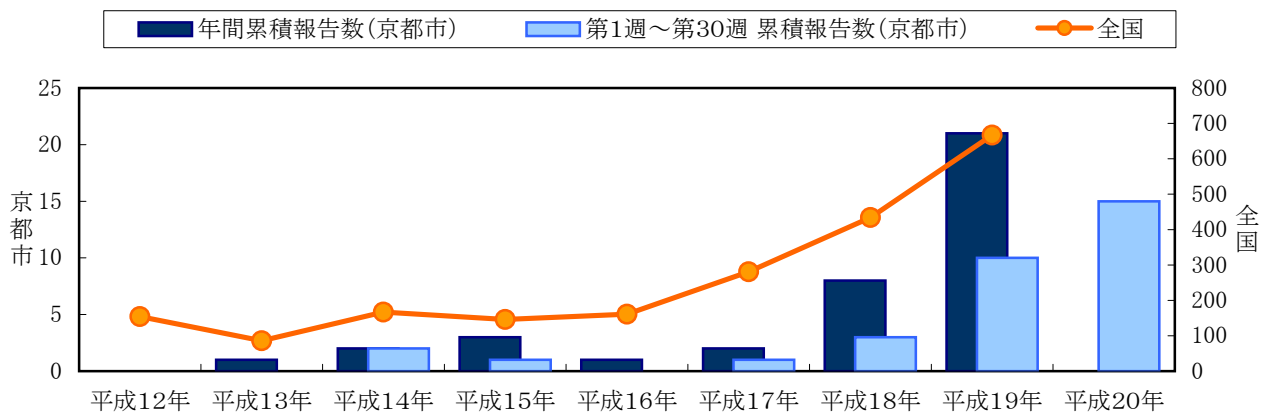
これは平成12年以降の同時期と比べ、最も多い報告数であり、全国及び京都市の年間累積報告数は、平成16年以降、増加傾向にあります。

平成15年4月から、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用となり、迅速検査が可能になったことが、報告数増加の一因とも言われています。

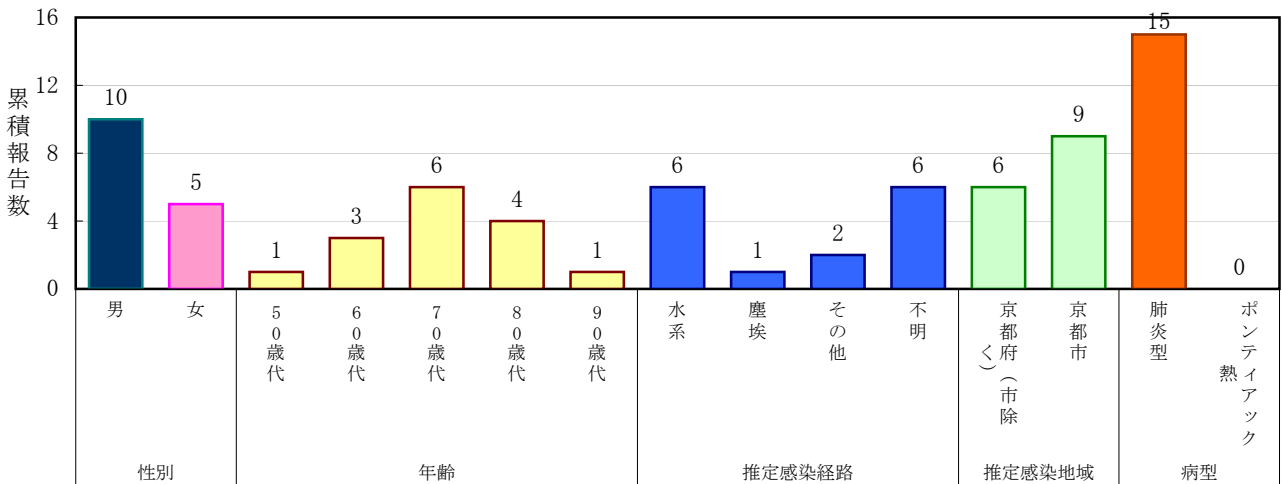
本年の15例の詳細をみると、性別では男性が多く(10例)、年齢群は、すべて50歳以上となっています。推定感染経路は水系が多く(6例)、推定感染地域はすべて京都府内で、そのうちの9例が京都市内です。病型はすべて肺炎型です。

第30週までの都道府県別累積報告数では、京都府は全国的には12番目、近畿二府四県の中では3番目の報告数であり、17例のうち15例が京都市からの報告です。

年間及び第1週～第30週の累積報告数(平成12年～平成20年)



患者の詳細(平成20年第1週～第30週 報告分)



都道府県別 累積報告数(平成20年第1週～第30週)

